

A-86 バナナ果実の追熟過程における組織変化
京都女大家政 ○江崎君子 川上いつゑ

目的 バナナの追熟に関しては、これまで菰田一派によって既に報告があるが、形態的な面の研究がなされていないので、われわれは、研究方向をかえて追熟による形態変化の追求を試みた。

材料と方法 京都市中央市場青果部より試料の提供をうけて用いた。使用したものは、神戸に荷揚げされて間もない青いバナナと、市販される程度に追熟されたもので、また市販の乾燥バナナの組織についても調べた。固定には緩衝ホルマリンと Carnoy および Bouin 氏液を用いた。染色には、ライト緑・サフラニンの二重染色およびゲンチアン紫、ヨード・ヨード加里、過ヨード酸 - Schiff 氏液などを用いた。

結果 青いバナナの組織は、細胞壁が丈夫で、細胞は細長い形をしており、1個の細胞には極めて数多くのデンプン粒を含む。これらのデンプン粒には、細長い、時にはやゝ大型のものも見られる。追熟が完成すると、細胞壁はこわれていないが、デンプン粒の数は少くなり、デンプン粒の表面はなめらかでなくなる。乾燥バナナではさらにデンプン粒の数は減じている。この現象は自己消化によるものと思われる。その他の組織の変化についても述べる。